

令和3年度 事業経営評価

団体名	(公財) 大阪国際交流センター	所管所属名	経済戦略局
-----	-----------------	-------	-------

中期目標	(1) 当該外郭団体の事業経営を通じて達成しようとする本市の行政目的又は施策の具体的な内容
	本市に居住する外国人住民を、公的支援の受け手という視点に加えて、主体的に大阪をともにつくる担い手と位置づけ、外国人住民のもたらす多様性を活かし、活力あふれる魅力あるまちづくりをめざすというビジョンのもと、外国人住民が、地域社会の一員として地域と交流し、安全・安心で快適に暮らし活躍できる多文化共生社会を実現していくための取組を進めていくこと。
	(2) 中期目標期間
	令和2年12月1日～令和6年3月31日
	(3) 中期目標の期間終了時において、(1)の行政目的又は施策によって実現しようとしている状態
	国籍や民族の異なる人々が互いの文化を認め地域社会の一員として共生することができる社会の実現に向けて、外国人住民が多文化共生の担い手として共に地域社会において活動すること(※)について、当該地域社会の住民の理解が深まり、当該活動を促進しようとする意識が高まっている状態 ※「外国人住民が多文化共生の担い手として共に地域社会において活動すること」とは、例えば、外国人住民が地域行事に参加あるいは運営側として参画することなどを通じて地域社会において日本人住民と交流し、自国の文化や習慣などを地域の住民と共有することによって、地域社会における多文化理解を深めるとともに、共に地域社会を担うパートナーとしての意識を醸成していくといったことなどをいう。

当該事業年度の自己評価	当該事業年度の指標及び目標に基づく評価を踏まえた団体の総合的な評価	
	新型コロナウイルス感染症の影響により、対面でのイベントや講座の開催が制限される中ではあったが、オンライン（Zoom）での会議・ミーティングを重ねるとともに、ホームページ・Facebook等を活用し情報提供と広報に努め、全ての指標において、目標値を達成することができ、順調に事業実施を行えた。	
	最終目標達成見込み	最終目標達成に向けた課題及び課題解消に向けた次年度以降の取組について
	ア	地域社会において、外国人住民（留学生を含む）が主体的に担い手となり、日本人住民と交流・連携するとともに、日本人と外国人が自ら交流を深めていけるよう、次年度以降も引き続き、区役所、社会福祉協議会をはじめとした地域団体、外国人コミュニティ、大学等との連携やネットワークの構築に努め、外国人住民への活躍の場を提供する。
当該事業年度の市の評価	ア：順調 イ：遅れあり ウ：計画の見直し必要	
	当該事業年度の指標及び目標に基づく評価を踏まえた本市の総合的な評価	
	団体の個別の取組においては、すべての指標において目標値を達成しており、順調に事業実施を行い成果をあげていると評価できる。コロナ禍においてイベント実施等が困難なかで工夫を重ね実施している点にも努力がうかがえ、引き続きの取組を期待する。 市における中期目標の達成状況の測定にあたっては、アンケートを行い結果を得たが、当年度の目標67%に比して、73.8%と目標を上回った。しかし、一過性に終わることなく、今後も目標を上回る水準を維持できるよう、引き続き堅実な事業継続が必要である。	
	助言等及び講ずるよう求める措置の内容【大阪市外郭団体等への関与及び監理に関する条例第7条第5項】（※必要な場合のみ）	

対象事業活動の実績に関する評価(事業活動に関する事項)

取組一 1 (※分野ごとの評価)

中期計画	団体が中期計画期間中に行政目標達成に向けて取り組む具体的な内容	
	<p>【外国人住民等の地域社会における活動機会の提供】 「多文化共生の担い手として地域社会において活動する」意欲のある外国人住民にその活動の機会を提供し、外国人住民のエンパワーメントを支援する。令和2年度に市民局の委託により作成した「多文化交流お助けガイド」を活用し、区役所や社会福祉協議会をはじめとした地域団体と連携し、外国人住民等が担い手となって、地域社会において日本人住民との交流を積極的に進め、顔の見える関係構築をめざす。特に将来の高度外国人材である留学生は、地域において外国人住民と日本人住民の相互理解や交流の橋渡し役としても期待できるため、留学生にも積極的に活動の機会を提供する。</p>	

【計画】団体が当該事業年度に取り組む具体的な内容		【実績】団体が当該事業年度に取り組んだ具体的な内容					
令和2年度に市民局の委託により作成した「多文化交流お助けガイド」を活用し、地域社会において日本人住民との交流を積極的に進める機会を提供し、顔の見える関係構築をめざす。 今年度は大阪市・区の社会福祉協議会をはじめとした地域団体と連携し、外国人住民等が担い手となって、大阪(日本)の生活での体験談や地域の日本人住民に望むことについて話をし、交流の際のヒントなどを提供する「多文化交流会」を開催する。		大阪市社会福祉協議会等の協力を得て、地域活動の担い手を中心に日本人参加者を確保し、地域のニーズにあったテーマ(「子育て」や「文化の違い」等)を設定して、10月～12月の間に市内4か所で「多文化交流会」を開催した。 外国人スピーカーについては、4月に募集チラシを作成・配布し、6月には応募者14人を対象にオンライン説明会を開催したほか、財団事業に参加した外国人を広く勧誘し、登録者を確保したうえで、各テーマに適したスピーカーに依頼して、参加者相互の満足度向上に努めた。(日本人参加者のべ104名、外国人スピーカーのべ19名)					
指標Ⅰ	外国人住民が参加や参画を通じて地域社会において日本人住民と交流する機会となる事業の実施回数						
	R2	R3(4月～12月)	R4	R5【最終】	R6	R7	
目標値	—	3件	5件	5件			
実績値		4件					
当該年度の目標達成状況	a(i)	《達成状況》 a: 目標達成: (i) 取組は予定どおり実施 (ii) 取組を予定どおり実施しなかった b: 目標未達成: (i) 取組は予定どおり実施 (ii) 取組を予定どおり実施しなかった					
【計画】団体が当該事業年度に取り組む具体的な内容		【実績】団体が当該事業年度に取り組んだ具体的な内容					
将来の高度外国人材である留学生は地域において外国人住民と日本人住民の相互理解や交流の橋渡し役としても期待できるため、積極的に財団の事業で活動できる機会を提供する。特に、日本人学生との交流の機会の少ない留学生が、日本人とのつながりを持つことができるよう、留学生が講師となり世代の近い高校生と英語や韓国語会話を教えながら交流する事業を実施する。今年度は天王寺区内の公立高校(4校)を対象に実施する。		留学生が講師となり世代の近い高校生と英語や韓国語会話を教えながら交流する事業を実施した。実施時期は6月～12月の間で90回(1時間/回)開催した。天王寺区内の公立高校(3校)の生徒が参加した。留学生は、英語: 中国人(2名)、台湾人(1名)、ベトナム人(2名)、インドネシア人(1名)、韓国語: 韓国人(3名)計9名がローテーションを組んで担当した。 コロナ感染拡大時には、各校に開催可否確認の上、感染対策を万全にして実施した。					
指標Ⅱ	留学生に活動の機会を提供した件数						
	R2(4月～12月)	R3(4月～12月)	R4	R5【最終】	R6	R7	
目標値	—	75件	100件	100件			
実績値	44件	90件					
当該年度の目標達成状況	a(i)	《達成状況》 a: 目標達成: (i) 取組は予定どおり実施 (ii) 取組を予定どおり実施しなかった b: 目標未達成: (i) 取組は予定どおり実施 (ii) 取組を予定どおり実施しなかった					

指標の達成状況	A	A: 指標全部達成 B: 指標全部未達成 C: 指標一部未達成	中期計画に対する進捗状況 【当該事業年度】	ア	ア: 「順調」 イ: 「遅れあり」 ウ: 「計画の見直し必要」
外郭団体の自己評価	当該事業年度の達成状況について				
	指標Ⅰ、Ⅱともに目標値を達成することができた。 指標Ⅰについては、新規事業であったが、財団が有するネットワークや、外国人対象の事業を多く実施する財団の強みを活かし、共催団体や外国人スピーカーを確保し、目標値を超えて開催することができた。また参加者の満足度もとても高かった。 指標Ⅱについては、昨年実施の講座内容を踏まえ、事前に各高校と協議の上、英語講座について新しくディスカッションコースを設け、特にダイアログ形式での討論を生徒達に体験してもらった。また、韓国語会話に参加希望する生徒も多かったため、初級コースを2クラス開講した。				
	最終目標(中期計画)達成に向けた課題及び課題解消に向けた次年度以降の取組について				
指標Ⅰについては、新たな共催団体の確保に努め、開催エリアの拡大に努めるとともに、多文化交流会をきっかけに地域住民が自ら交流を深めていけるよう、多文化交流ガイドブックの活用についてさらに働きかける。 指標Ⅱについては、留学生の招集において、これまでの参加学校に加え、財団がインターンを受け入れている諸大学・学校にも参加を呼び掛け、更に多国籍で多分野を専攻する留学生の獲得・活動機会の提供に努める。また、講座に参加する高校生についても、引き続き、参加高校や参加生徒数の拡大に努める。					

中期計画に対する進捗状況 【当該事業年度】	ア	ア：「順調」 イ：「遅れあり」 ウ：「計画の見直し必要」	「様式1：中期目標(3)」 に対する取組の有効性	A	A：有効であり、継続して推進 B：有効でないため、取組を見直す
「外郭団体の自己評価」に対する審査結果					
指標指標Ⅰ、Ⅱともに目標値を達成している。指標Ⅰにつき、開催回数だけでなく参加者満足度も高い点、指標Ⅱについては、高校と協議し受講者のニーズをくみ取りながら柔軟に運営している点、また、指標Ⅰ、Ⅱとも次年度以降の取組について今年度の成果も踏まえたうえで、エリアや参加者等の拡大に向けた取組を検討していることから、今後も順調な実施が期待できる。順調であるとの団体の自己評価は妥当である。					
「中期目標」達成の視点からみた審査結果					
全ての指標において目標値を達成していることから、外国人住民等が地域社会において活動する機会を着実に提供しており、外国人が地域社会の一員として地域と交流し活躍できる社会の実現に向けて有効な取組を行っていると考え。指標Ⅰに関しては、多文化交流会の開催のみにとどまらず、参加者自らがその後交流を深められるよう、指標Ⅱに関しては、感染対策に配慮しつつ、引き続きの取組を期待する。					

市の審査

対象事業活動の実績に関する評価(事業活動に関する事項)

取組一 2 (※分野ごとの評価)

中期計画	団体が中期計画期間中に行政目標達成に向けて取り組む具体的な内容
	<p>【多文化共生についての理解促進に向けた住民への情報発信】 「アイハウス多文化交流プラットフォーム」の運営により、自国の文化紹介や日本での生活情報の発信ができる外国人住民等の「達人」を発掘する。また、財団は、達人及び達人のスキルを活かした活動（多文化共生についての理解促進に向けた活動等）をプラットフォームを通して発信する。 あわせて、プラットフォームを広く周知し、地域社会へアプローチする。</p>

【計画】団体が当該事業年度に取り組む具体的な内容		【実績】団体が当該事業年度に取り組んだ具体的な内容					
今年度は、まず交付金事業や、受託事業などで財団と関わりを持った外国人を中心に「達人」への登録に向けた働きかけを行い、新規登録者を確保する。		日本語教室や登録ボランティア等、財団事業の参加者を中心に「達人」への登録依頼や登録を呼びかけるチラシの配布を行った。 また、財団が連携する外国人コミュニティや外国人が在籍する団体・学校等へも「達人」の新規登録者の獲得に向けて協力を依頼した。					
指標Ⅲ	情報発信に関するスキルを有する人材（達人）登録者数（新規登録者）						
	R2（4月～12月）	R3（4月～12月）	R4	R5【最終】	R6	R7	
目標値	—	6名	10名	10名			
実績値	0名	9名					
当該年度の目標達成状況	a(i)	《達成状況》 a：目標達成：(i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった b：目標未達成：(i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった					
【計画】団体が当該事業年度に取り組む具体的な内容		【実績】団体が当該事業年度に取り組んだ具体的な内容					
「達人」のなかでも、特に大阪（日本）での生活情報を動画で発信できる人を確保し、テーマを決めて積極的に発信することで、広く市内の外国人住民が、日本での生活になじめるようサポートする。		昨年度に引き続き「子育て」関連の動画の他、コロナ禍での生活の工夫やワクチン接種についての動画を作成し発信した。「子育て」のテーマについては、授乳室や子育て環境の違いといった未就学児向けのものだけでなく、学校の成績表の見方といった就学後の子育てに役立つ知識についても発信した。					
指標Ⅳ	ウェブサイトを通じた情報の発信件数						
	R2（4月～12月）	R3（4月～12月）	R4	R5【最終】	R6	R7	
目標値	—	15件	20件	30件			
実績値	19件	16件					
当該年度の目標達成状況	a(i)	《達成状況》 a：目標達成：(i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった b：目標未達成：(i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった					
【計画】団体が当該事業年度に取り組む具体的な内容		【実績】団体が当該事業年度に取り組んだ具体的な内容					
「アイハウス多文化交流プラットフォーム」を広く周知し、外国人住民等の活動を紹介するため、今年度は、国際交流、多文化共生等を推進する団体や財団の持つネットワークを活用し、連携して情報発信をしてくれる団体を発掘するとともに、地域社会へアプローチすることで、連携して情報発信をしてくれる団体を発掘する。		大阪商工会議所ホームページからのリンク設定の他、公益財団法人都市活力研究所のホームページで財団のコミュニティ活動に関するヒアリング概要等が紹介された。また地域振興をテーマとした専門誌「コロンブス」で当事業が紹介されたことも、今後の連携先の獲得に向けた周知機会となったと考えている。					
指標Ⅴ	情報発信を連携して行う活動団体や事業者の発掘件数						
	R2	R3（4月～12月）	R4	R5【最終】	R6	R7	
目標値	—	2団体	3団体	4団体			
実績値		2団体					
当該年度の目標達成状況	a(i)	《達成状況》 a：目標達成：(i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった b：目標未達成：(i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった					

外郭団体の自己評価	指標の達成状況	A	A：指標全部達成 B：指標全部未達成 C：指標一部未達成	中期計画に対する進捗状況 【当該事業年度】	ア	ア：「順調」 イ：「遅れあり」 ウ：「計画の見直し必要」
	当該事業年度の達成状況について					
	<p>指標Ⅲ、Ⅳ、Ⅴとも目標数字を達成することができた。これらの取組を通し、ネパールやイラン、オーストラリア、台湾など、より多様な国・地域から達人を獲得することができ、情報発信の内容が充実した。また、財団のネットワークが広がったことにより、情報発信の裾野を広げることができた。</p> <p>最終目標(中期計画)達成に向けた課題及び課題解消に向けた次年度以降の取組について</p> <p>指標Ⅲについては、財団と関わりのある外国人だけでなく、在阪の総領事館や外国人コミュニティに働きかけるなど、より広い人材発掘に努める。指標Ⅳについては、生活情報の発信だけでなく達人自らが企画・実施するイベント情報の発信支援に努め日本人等が多様な文化に触れる機会を提供する。指標Ⅴについては、ウェブ上で連携できるサイトなどの情報を収集し、情報発信団体の確保に努める。</p>					

中期計画に対する進捗状況 【当該事業年度】	ア	ア：「順調」 イ：「遅れあり」 ウ：「計画の見直し必要」	「様式1：中期目標(3)」 に対する取組の有効性	A	A：有効であり、継続して推進 B：有効でないため、取組を見直す
「外郭団体の自己評価」に対する審査結果					
指標Ⅲ、Ⅳ、Ⅴともに目標値を達成している。多様な国・地域から達人を獲得することができた点、ネットワークが広がった点から、情報発信の内容・対象ともに、今後の充実が期待できる。また今後の展開にむけ、これまで関わりが薄かった総領事館との連携という新たな手段を検討していることから、今後の展開に向けた課題認識も的確である。順調であるとの団体の自己評価は妥当である。					
「中期目標」達成の視点からみた審査結果					
全ての指標において目標値を達成しており、多文化共生についての理解促進に向けた住民への情報発信を着実に実施していることから、外国人住民が、安全・安心で快適に暮らし活躍できる多文化共生社会の実現に向けて有効な取組を行っていると考えられる。 指標Ⅲについて、課題認識の上で新たな手段を検討している点、指標Ⅳ、Ⅴについては、コロナ禍という特殊な状況においてもその中で有効な取組を模索し目標値を達成している点から、引き続きの取組を期待する。					

市の審査